



感染症		主 な 症 状	感染経路	潜伏期間	出席停止期間
第一種	急性灰白髄炎（ポリオ）	かぜ症状・胃腸症状	経口・接触	3～21日	医師が感染のおそれがないと認めるまで
	ジフテリア	発熱・咽頭痛・頭痛・倦怠感	飛沫	主に2～7日	
	重症急性呼吸器症候群(SARS)	高熱・咳息切れ・呼吸器の症状	飛沫・接触	主に2～7日	
	鳥インフルエンザ(H5N1)	高熱・急性呼吸器症状・頻呼吸	飛沫・接触	主に2～8日	
第二種	インフルエンザ	高熱・頭痛・悪寒・筋肉痛・全身倦怠感のどの痛み・鼻水・鼻づまり	飛沫・接触	平均2日（1～4日）	発症した後5日を経過し、かつ、解熱後2日を経過するまで
	新型コロナウイルス感染症	発熱・咳・全身倦怠感等の感冒様症状・頭痛・下痢・結膜炎・嗅覚障害・味覚障害等	飛沫	主に2～3日	発症した後5日を経過し、かつ症状が軽快した後1日を経過するまで
	百日咳	がんこで激しい咳（特に夜） 発熱は少ない	飛沫・接触	5～21日	特有の咳が消失するまで。または、5日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで
	麻疹（はしか）	発熱・咳・鼻水などの風邪様症状・発疹 コプリック斑（頬の内側にできる斑点）	空気・飛沫 接触	主に8～12日（7～18日）	解熱後3日を経過するまで
	風疹（三日ばしか）	淡紅色の発疹・発熱・頸部リンパ節の腫れ	飛沫・接触	主に16～18日（14～23日）	発疹が消失するまで
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	発熱・耳の下からあごにかけての腫れと痛み	飛沫・接触	主に16～18日（12～25日）	耳下腺、顎下腺または、舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
	水痘（みずぼうそう）	発熱（軽～中程度） 発疹→水疱→かさぶた	空気・飛沫 接触	主に14～16日	全ての発疹がかさぶたになるまで
	咽頭結膜熱	高熱・のどの痛み・頭痛・食欲不振・目やに・涙・耳前リンパ節の腫れと痛み・結膜の充血	飛沫・接触	2～14日	発熱、咽頭炎、結膜炎などの主要症状が消退した後2日を経過するまで
	結核	初期結核の症状・発熱・咳・疲れやすい 食欲不振・顔色が悪い	空気	2年以内 特に6ヶ月以内	医師が感染のおそれがないと認めるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	高熱・頭痛・発疹・吐き気・関節炎	飛沫・接触	主に4日以内（1～10日）	
第三種	腸管出血性大腸菌感染症（O157など）	激しい腹痛・水様便・血便	経口・接触	10時間～6日	
	流行性角結膜炎	目やに・結膜の充血・まぶたの腫れ・異物感	接触	2～14日以上	医師の診断に従ってください （条件によっては出席停止の措置が必要と考えられる）
	急性出血性結膜炎	結膜出血・結膜充血・まぶたの腫脹・異物感・流涙・めやに・角膜びらんなど	接触	平均24時間	
その他の感染症	溶連菌感染症	猩紅熱	飛沫・接触	2～5日	医師の診断に従ってください （条件によっては出席停止の措置が必要と考えられる）
		上気道感染症			
	手足口病		飛沫・接触 経口	3～6日	
	伝染性紅斑（りんご病）		飛沫	4～21日	
	ヘルパンギーナ		飛沫・接触 経口	3～6日	
	マイコプラズマ感染症		飛沫・接触	主に2～3週間（1～4週間）	
	感染性胃腸炎		飛沫・接触 経口	ノロウイルス 12～24時間	
				ロタウイルス 1～3日	
	アタマジラミ		接触	産卵からふ化までは10日～14日、成虫までは2週間	医師の診断に従ってください （通常出席停止の必要はありません）
	伝染性軟属腫（水いぼ）		接触	主に2週～7週	
	伝染性膿痂疹（とびひ）		接触	2～10日 長期の場合もある	

◎ 出席停止期間については、病状により医師が感染のおそれがないと認めたときは、上記の限りではありません。